

unysizeSDK for iOS Swift 用サンプルコードについて

unysizeSDK for iOS Swift を使用して unysize の各機能を利用するための簡単なサンプルアプリケーションのプロジェクトです。unysizeSDK を Swift で実装する場合の実装サンプルとして、また、機能テスト用としてご利用いただけます。

※ 本プロジェクトの動作には unysizeSDK v2.0以降が必要です。※ SDKに付属している「導入手順」「SDKリファレンス」も合わせてご確認ください。

使用しているSDK

- unysizeSDK for iOS Swift (v2.0以降)
※ unysizeSDK の利用には unysize が発行したクライアント識別ID (CID) が必要です。

プロジェクト内の主なファイル

- ViewController.swift
UnysizeBanner Class の実装を確認いただけます。
- CVTagTestViewController.swift
UnysizeCVTag Class の実装を確認いただけます。
- Main.storyboard
サンプルで使用している ViewController のストーリーボードが含まれています。

プロジェクトの設定

USBでiPhone実機を繋いで起動する場合は、事前に プロジェクトの設定 > Signing & Capabilities の Siging > Team を設定して下さい。（シミュレーター上での起動の場合は不要です。）

unysizeバナーの表示テスト

unysizeSDK Sample App > unysizeSDK Sample App > ViewController.swift
L20～

下記の部分に「クライアントID」、「アイテム識別ID」を設定して起動して下さい。
unysizeバナーが表示されます。

```
var cid: String = "" // クライアントID
var itm: String = "" // アイテム識別ID
var cuid: String = "" // クライアント会員ID
var lang: String = "" // 表示言語(オプション)
```

CVタグの発火テスト

unysizeSDK Sample App > unysizeSDK Sample App > CVTagTestViewController.swift L20～

下記の部分に「クライアントID」、「ECサイトのユーザー識別ID」、「購入ID」、「商品ごとの購入数」、「商品識別ID（商品ごと）」、「商品ごとの価格」、「サイズ情報（商品ごと）」を設定して起動すると、画面表示時にCVタグが発火します。

※実際に購入として集計されるため、起動する場合は、unysizeが発行したテスト用クライアント識別ID（CID）を使用して実行して下さい。

```
let cid: String = "" // クライアントID
let cuid: String = "" // ECサイトのユーザー識別ID
let purchaseid: String = "" // 購入ID

// 商品ごとのパラメータ（String配列）
let itemnum: [String] = [] // 商品ごとの購入数
let itemid: [String] = [] // 商品識別ID（商品ごと）
let price: [String] = [] // 商品ごとの価格
let size: [String] = [] // サイズ情報（商品ごと）

// iteminfo形式（まとめて送信する場合用）
let iteminfo: String = "" // ※通常は使用しない
let iteminfojson: String = "" // ※通常は使用しない
let regType: String = "" // ※通常は使用しない
```

- 送信すると実際に購入として集計されるため、起動する場合は、unysizeが発行したテスト用クライアント識別ID（CID）を使用して実行して下さい。
- iPhone 端末と Mac を繋いで Safari を使った開発モードを使うと、開発ツールのネットワークタブでトラッキングが送信されているかの確認が可能です。「tracking」という項目を選択すると送信された情報などを確認できます。